

# 当院の今後のあるべき姿を考える ～地域社会における役割を考えて～

熊本地域医療センター 杉田裕樹

2023年9月9日  
第30回全国共同利用施設協議会 第一分科会



一般社団法人 熊本市医師会  
熊本地域医療センター  
Kumamoto Regional Medical Center

# はじめに

少子化、超高齢化社会を迎える今後、共同  
利用施設である当院がどうあるべきかを、  
地域の医療需要の観点から検討した。



# 当センターについて

- 1981（昭和56）年熊本市の中心部に165床で開院し、休日夜間急患センター（一次救急）と医師会員のバックアップとしての急性期医療を開始した。1987（昭和62）年227床に増床され、地域の中核病院として現在に至る。
- 病院理念は「かかってよかった、紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。」である。

主な指定は地域医療支援病院、熊本県癌拠点病院、小児救急拠点病院等。

## < 標榜診療科目 >

内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病代謝内科、外科、消化器外科、小児外科、小児科、放射線科、麻酔科、病理診断科、皮膚科、アレルギー科  
以上 計14診療科

# 当センターについて

- ・入院基本料：

HCU入院医療管理料 1 (4床) 高度急性期  
急性期一般入院料基本料 1 (152床) 急性期機能  
小児入院医療管理料 3 (29床) 急性期機能  
地域包括ケア病棟入院 2 (28床) 回復期機能  
緩和ケア病棟入院料 2 (14床) 慢性期機能

- ・緊急入院率：令和4年度54.0%

- ・職員数：425名 (R5年4月1日：非常勤・嘱託・臨時・パート含) 医師：42名 (嘱託1名、非常勤11名) 看護職員：216名、  
コメディカル：93名 事務職員他：74名







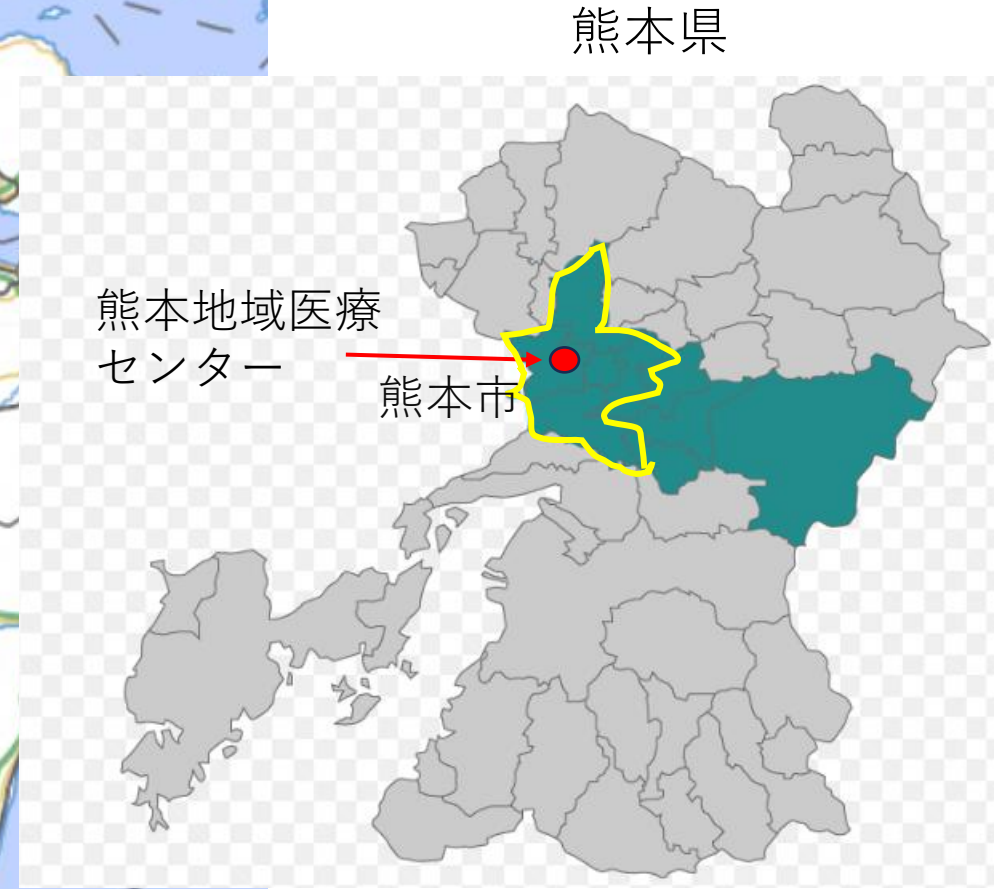


# 2021年熊本城天守閣復旧



# 熊本・上益城二次医療圏

2020年人口：  
820,860人

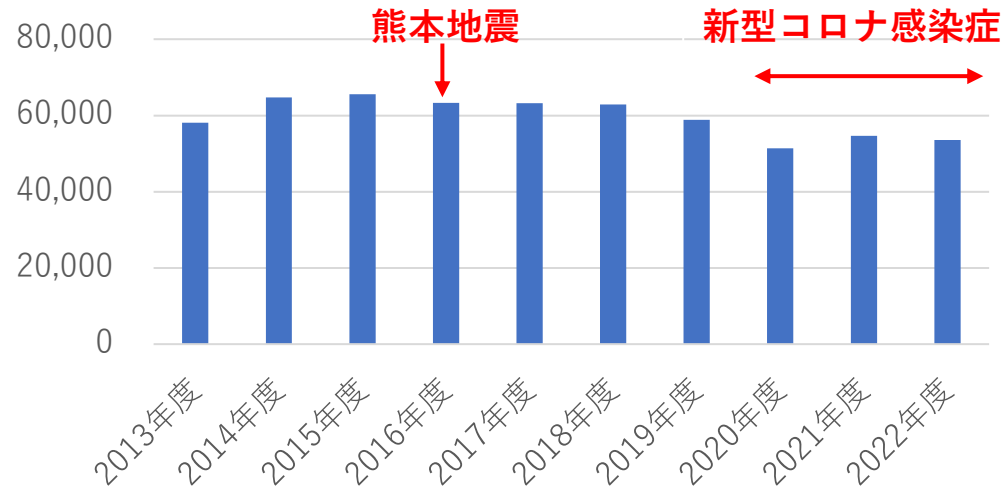


# 当センターの現状

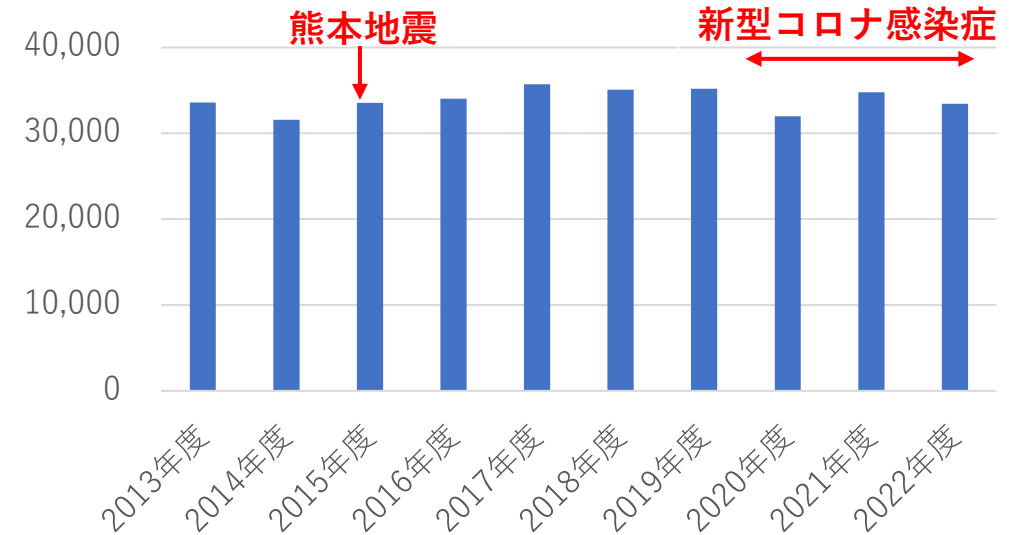


# 入院および外来患者数

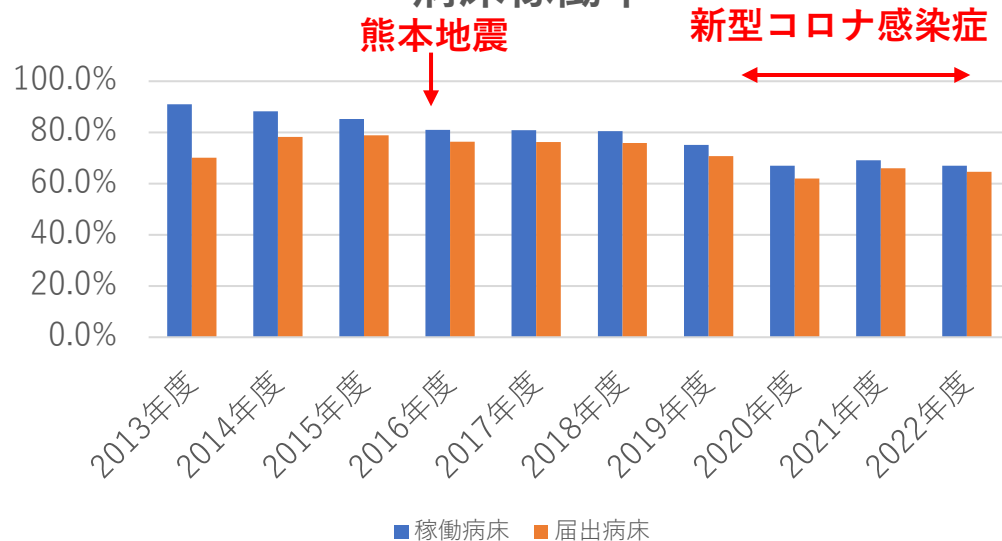
## 入院延日数



## 日勤帯外来総数

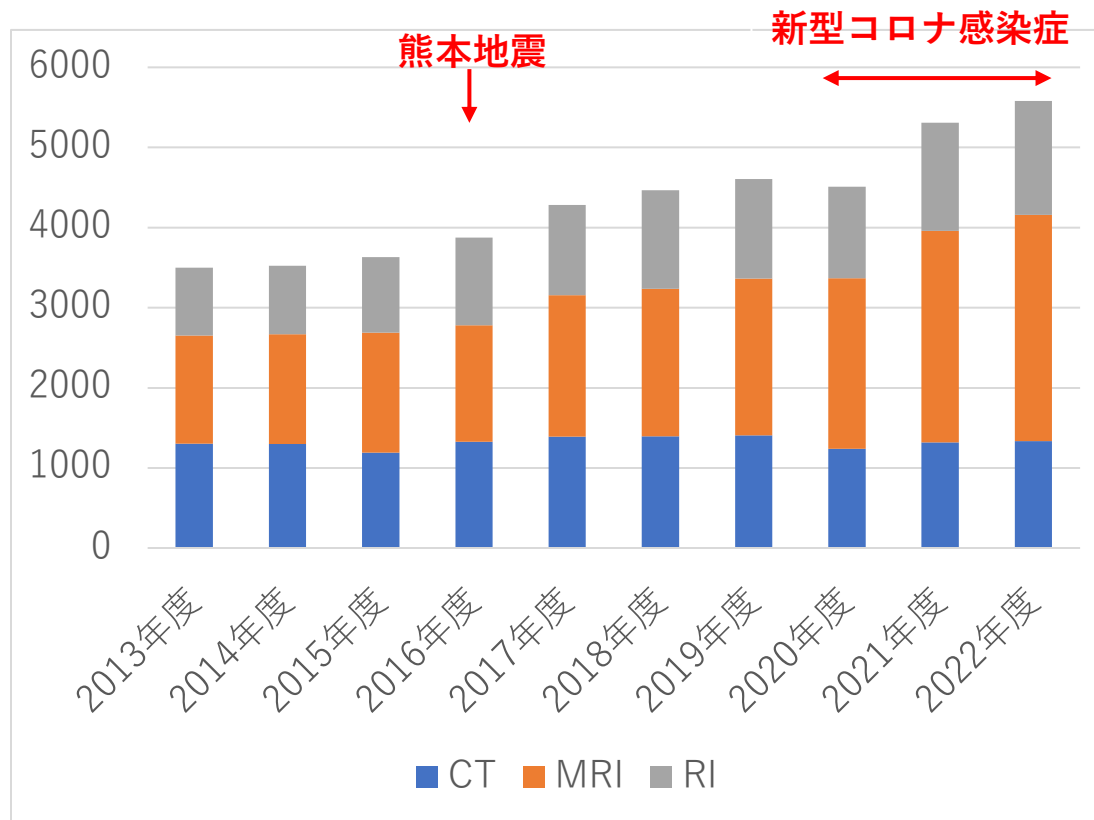


## 病床稼働率

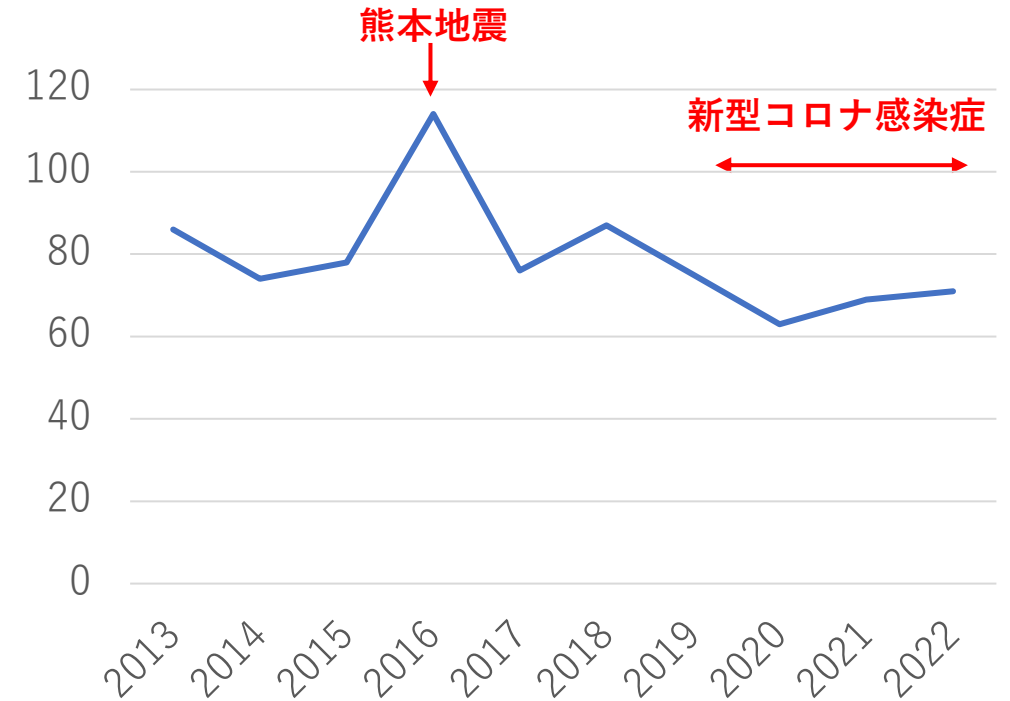


# 共同利用施設として

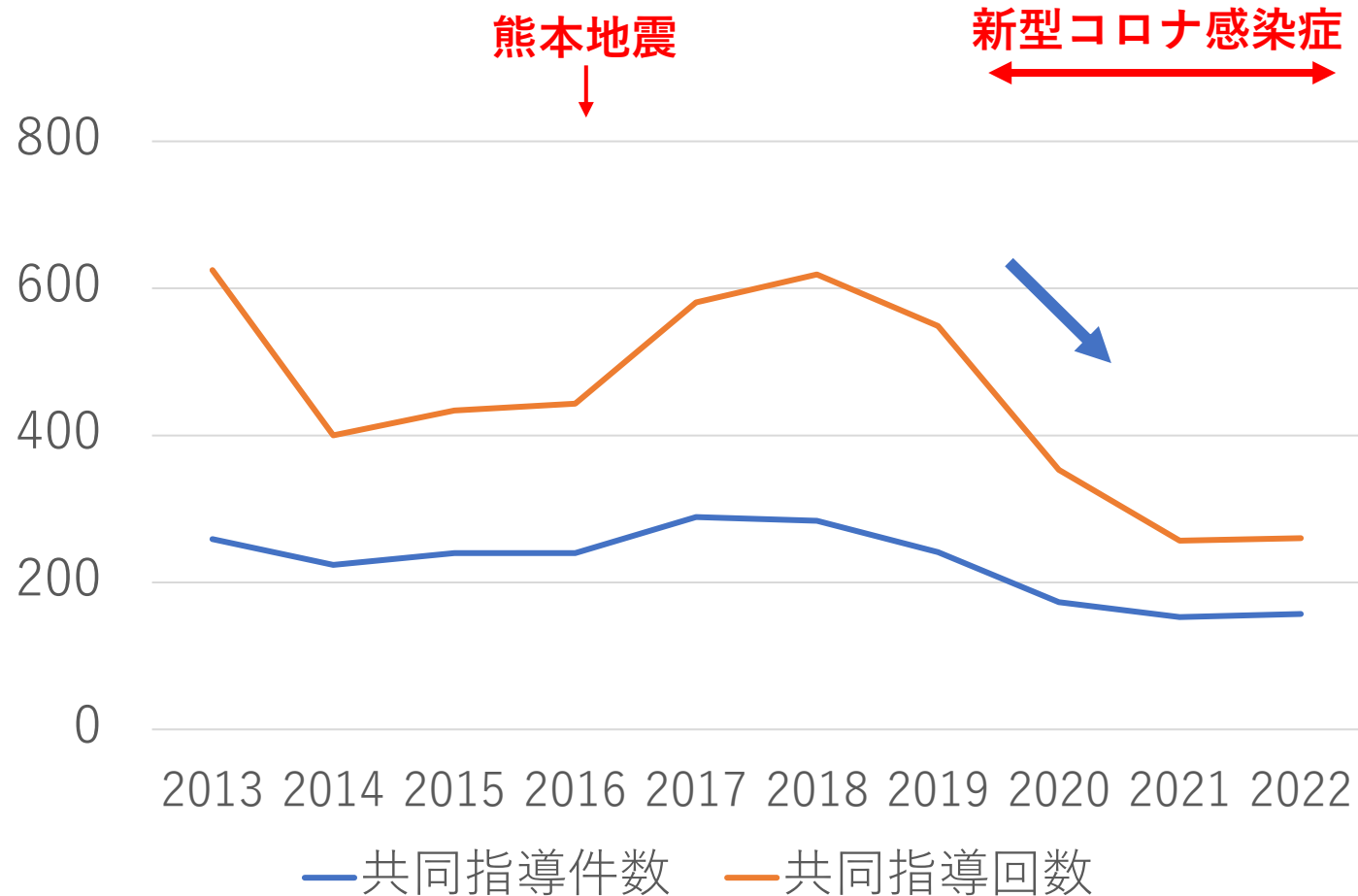
## 依頼検査数の推移



## 会員執刀手術症例数



# 共同指導件数の年次推移



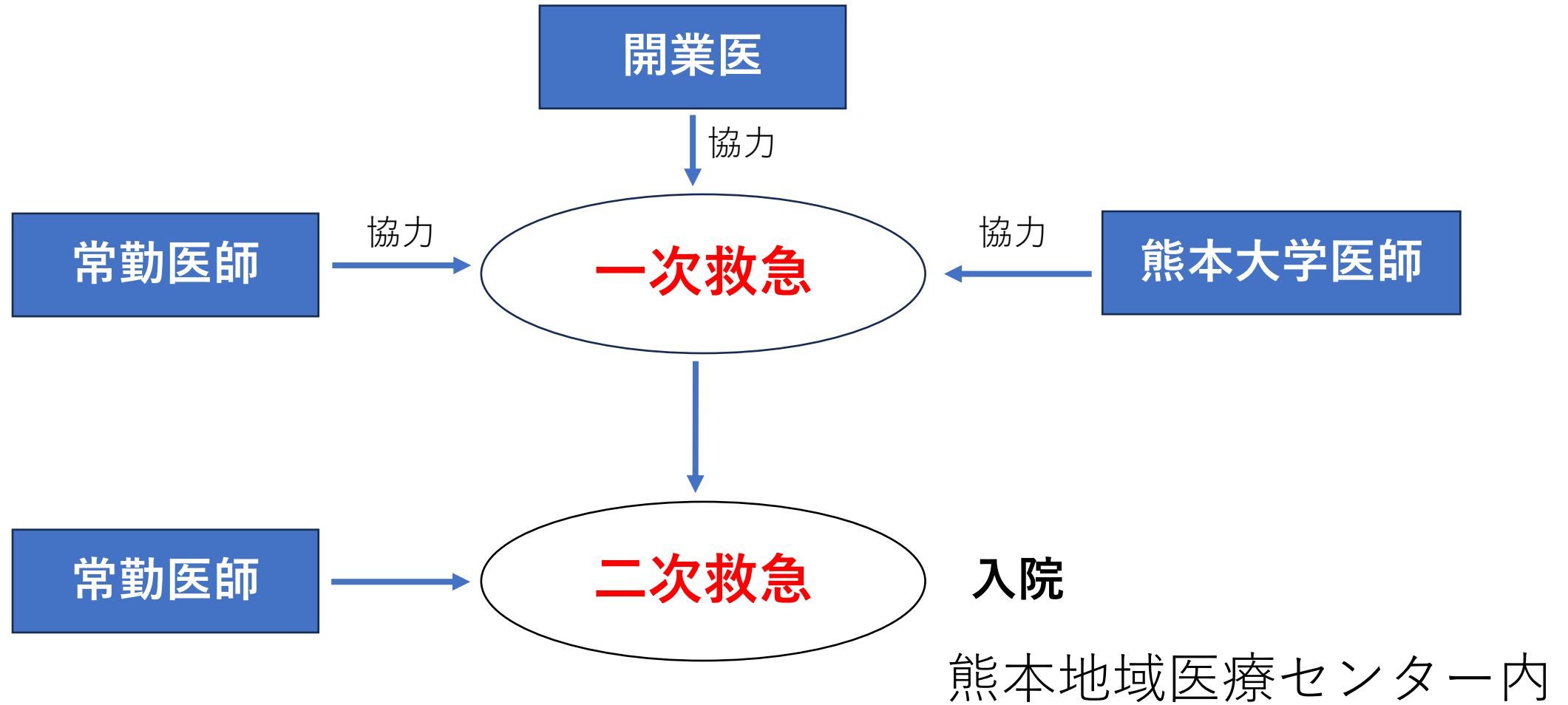


# 熊本地域医療センターにおける休日夜間 急患センターは熊本方式で行う

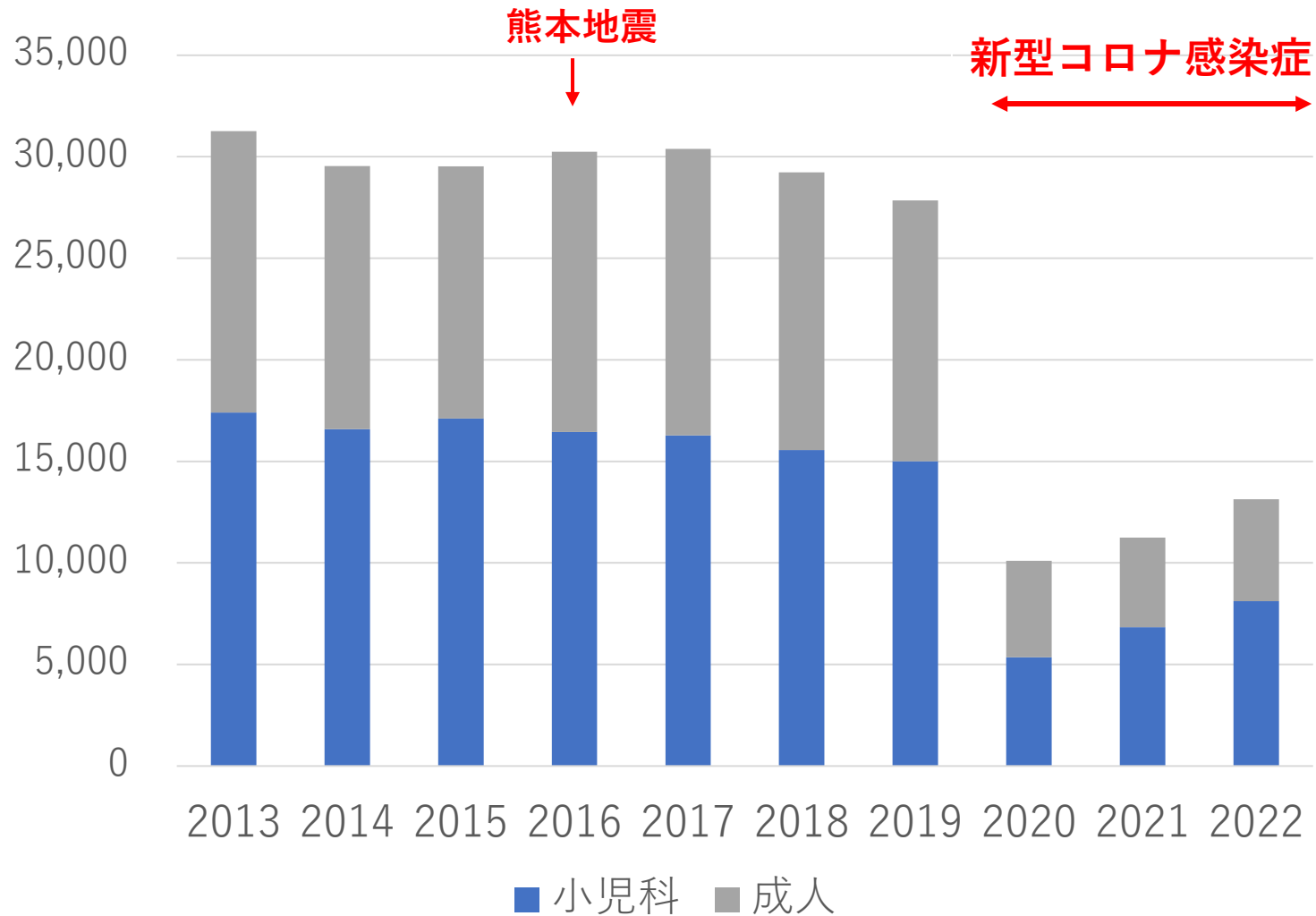
熊本方式：

熊本市から委託され、熊本大学医師、熊本市近辺の開業医師、当院常勤医師が三位一体で協力して行う「熊本方式」と呼ばれる独特の**24時間**救急体制で、熊本市のみならず近隣の市町村の救急患者に対応しています。

# 熊本方式と呼ばれる休日夜間急患センター



# 休日夜間急患センター受診患者数





# 新型コロナウイルス感染症院内感染により 一時的に診療制限

## 熊本地域医療センター受け入れ停止

## 頼れる存在 保護者不安

看護師の新型コロナウイルス感染症が確認された熊本中央区の熊本地域医療センターは、救急外来と新規入院患者の受け入れを停止した。同センターは熊本都市圏の小児救急の重要拠点。小さな子を持つ親にとっては傍らに頼り込めるような存在であり、関係者は「影響が最小限に止まってほしい」と切望している。

## 小児救急 拠点揺らぐ



看護師の新型コロナウイルス感染症が確認された熊本地域医療センター。熊本都市圏の小児救急の重要拠点であり、影響が懸念されている。

同センターの小児救急は子どもの発熱やけがの間救急は、常勤の医師2名、同センターの救急外来を利用して加え、市内や近隣で開業する小児科医や熊本大病院の医師らが輪番で診療する。熊本方式を取っている。

診療に協力する杉野茂人・県小児科医会長は「最近では新型コロナウイルス感染症を恐れず受診を受ける動きがあるため、子どもの患者数は減少傾向。『短期間であれば他の病院でカバーできる』と話す一方、長期化すれば維持可能な態勢を確保する必要があり」とも指摘する。

保育園の年長から小学6年生まで3人の子を持つ同市東区のサトウ菜田中恵さん(43)は「19日、熊本中央区

19日午前0時半ごろ、妻は倉庫兼住居で寝ていた。住居を兼ねる鮮製あん所など3棟全焼 山鹿市

山鹿市と山鹿市消防本部によると、望月さん方は3人暮らし。出火当時、望月さんと長男は製あん所兼住居、

## 同僚看護師も陽性

地域医療センター 院内感染か 県内40人

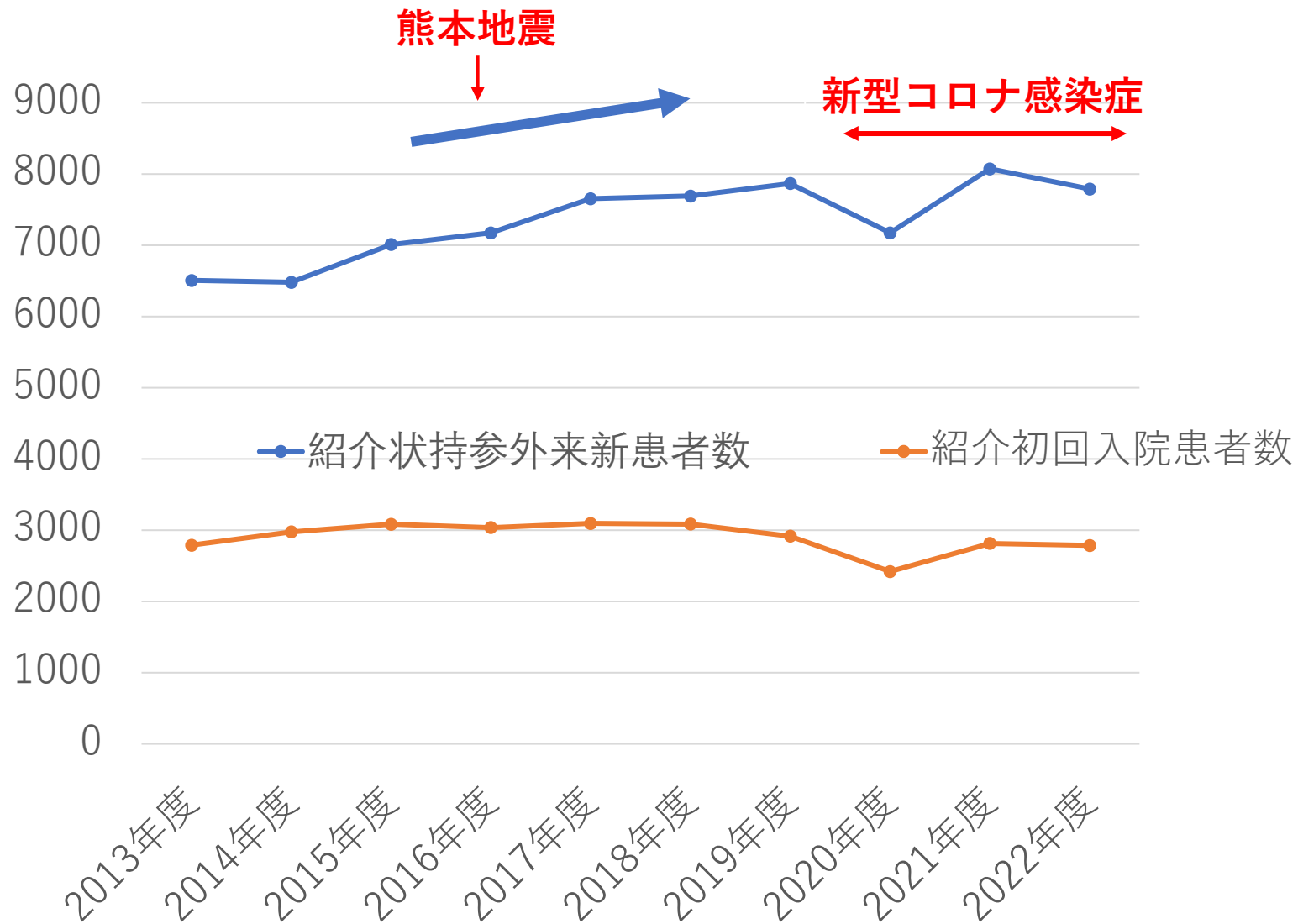
熊本市は19日、新たに9人が新型コロナウイルスに感染したと発表した。うち同市看護師は18日、30代の看護師は18日、検査で陽性となつた。既往症もない。2人の看護師は同センターの休室で検査を受けた。看護師の感染確認を受けた同センターは18日夜から救急外来と新規入院患者の受け入れ(開業後)坂本尚志

## 新たに372人感染 国内

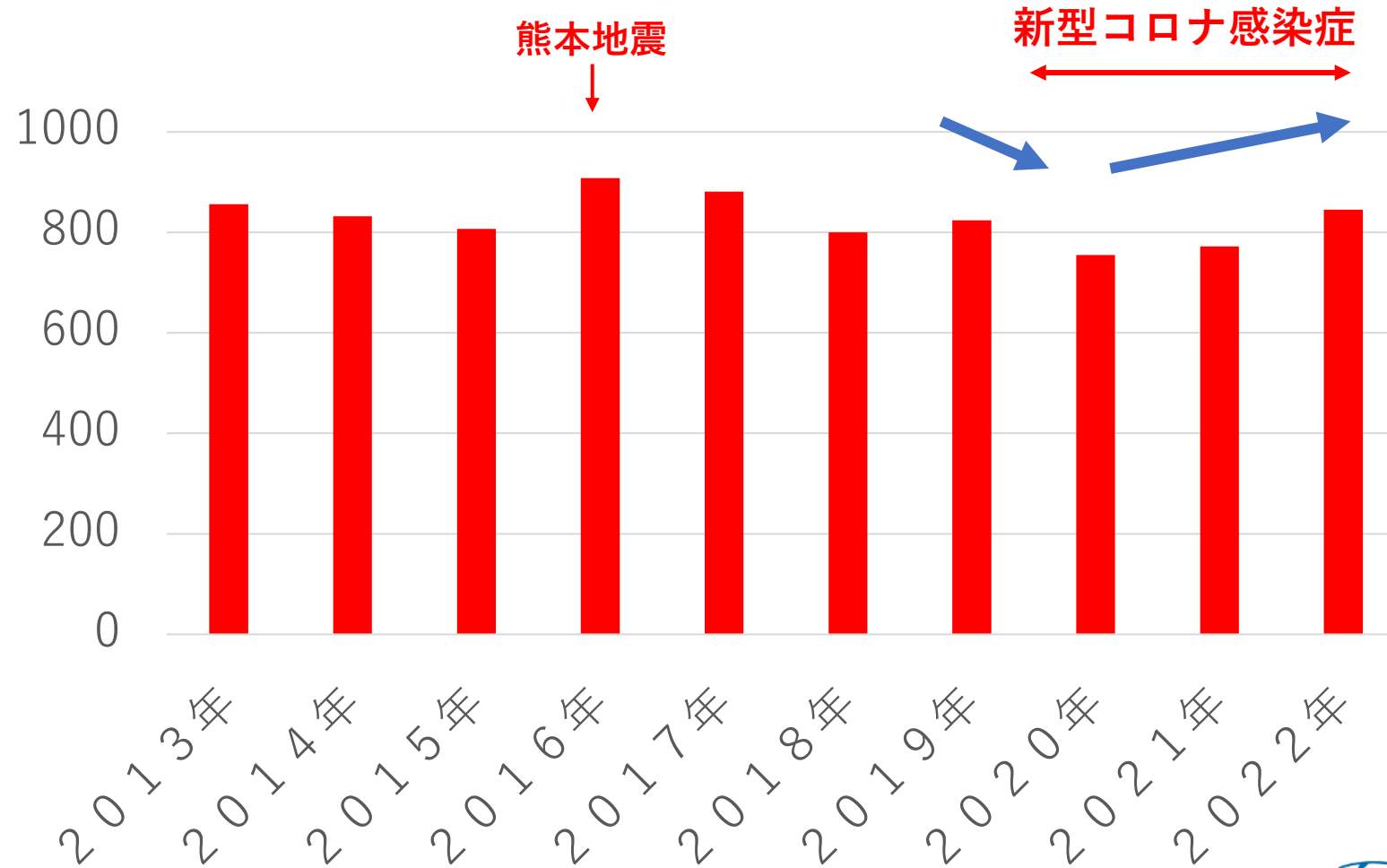
国内では19日、新たに372人の新型コロナウイルス感染者が確認された。累計は1万78人となった。クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の乗客乗員やチャーター機による帰国者を含めると、1万1504人、死者は12人増えた。

国内での確認例	1万0778人(+372)	236
北海道	429 (+27)	10
青森県	83 (+1)	1
岩手県	61 (+2)	1
宮城県	139 (+4)	1
秋田県	46 (+2)	1
山形県	122 (+2)	1
福島県	663 (+37)	10
茨城県	683 (+18)	10
栃木県	3082 (+107)	17
群馬県	782 (+30)	10
埼玉県	56 (+4)	1
千葉県	95 (+5)	1
東京都	178 (+6)	1
神奈川県	112 (+1)	1
新潟県	49 (+5)	1
富山県	139 (+2)	1
石川県	52 (+2)	1
福井県	405 (+10)	10
山梨県	35 (+1)	1
長野県		
岐阜県		
静岡県		
愛知県		
三重県		
滋賀県		
京都府		
大阪府		
兵庫県		
奈良県		
和歌山県		
徳島県		
香川県		
愛媛県		
高知県		
福岡県		
佐賀県		
大分県		
熊本県		
鹿児島県		
沖縄県		
海外からの帰国者	14人	1
クルーズ船の乗船者	712人	13
計	1万1504人(+372)	
1803人(+90)		
[19日正午現在]		
死者	249人(+12)	

# 医師会員のバックアップとして：紹介患者数の推移



# 全手術件数の年次推移





# これからやるべきこと

当院が地域社会に期待されている医療を行い、地域社会にてなくてはならない病院をめざす。

地域の医療需要の観点から、今後の当院の在り方を考えなくてはならない。



# 当院の理念

「かかってよかった、紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざします。」



「かかってよかった、紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざし、**地域社会に貢献します。**」



# 公益性が高い医療

- 休日夜間急患センター、積極的救急車受入、新興感染症の診療等を継続する。
- 今後少子高齢化社会が一層進む事が予想されているが、地域社会の要望に応え小児救急を維持する。





# 休日夜間急患センターの継続

## 科目

臓器内科・消化器内科  
謝内科・消化器外科  
・放射線科・麻酔科  
アレルギー科

17:00  
出ください

市医師会 熊本地域医療センター

【夜間施設中】

＜施設時間＞ 17時～5時  
ご乗の際は、インターホンの  
ボタンを押してください。



異状・せきなどの痛みなど  
院内へ入らず、お持ち  
ください。お持ち  
ください。お持ち  
ください。お持ち  
096-363-3311



一般社団法人 熊本市医師会  
熊本地域医療センター  
Kumamoto Regional Medical Center

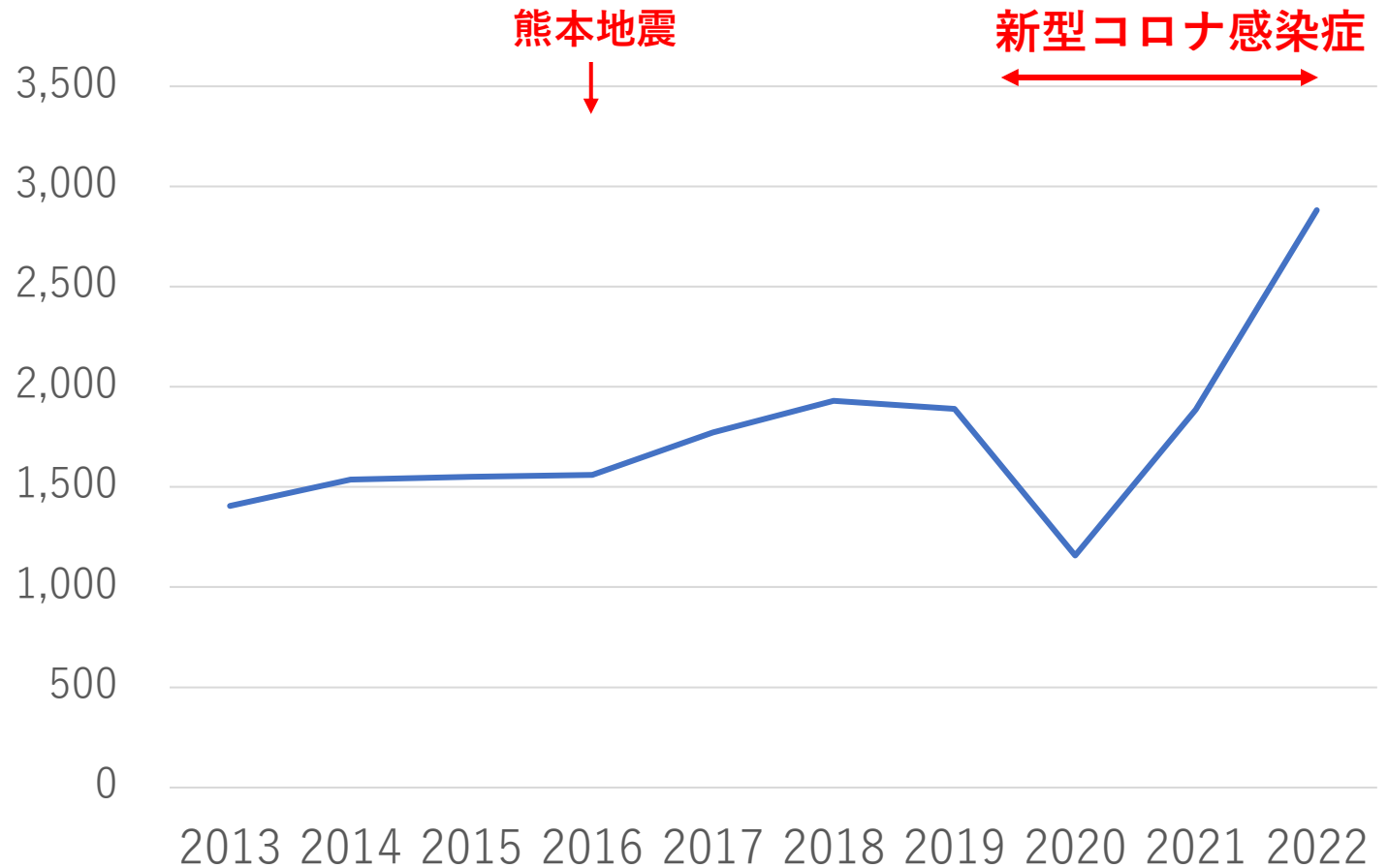
# 休日夜間急患センターの継続

## 問題点として

- 新型コロナ大流行により患者数が激減、協力医の確保も困難になり、2020年10月から成人の内科・外科の深夜帯は休止した状態
- 2024年度からの医師の働き方改革により協力医の確保が益々困難となっている
- 小児科は深夜帯も継続しているが、宿日直許可が下りるかどうかが鍵となっている



# 二次救急：救急車受け入れ件数



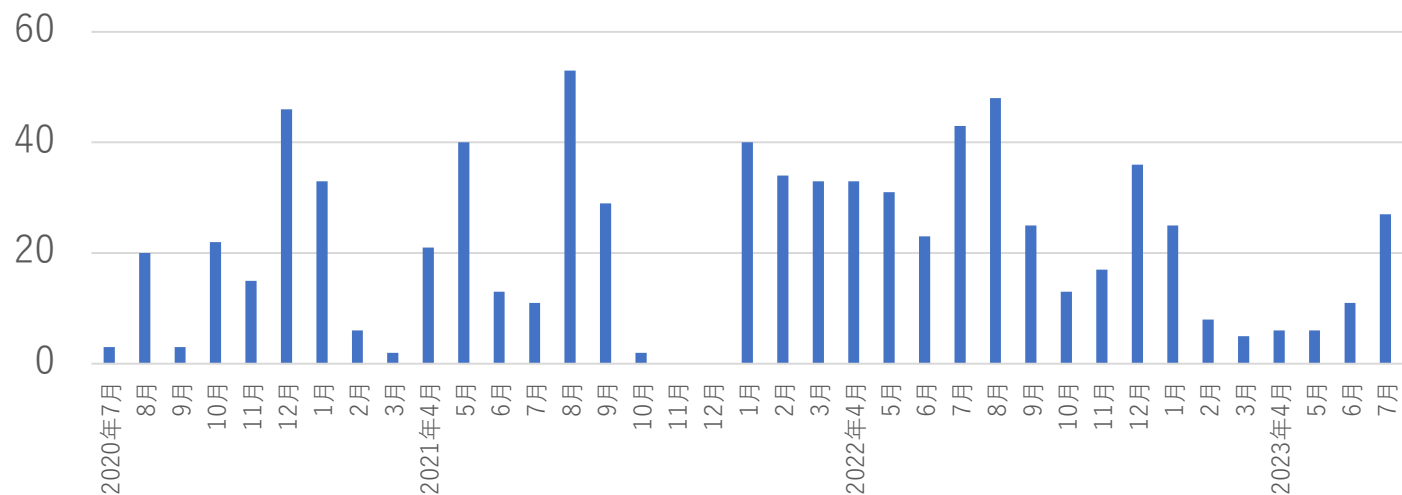
# 新型コロナウイルス感染症の治療



2020年新型コロナ感染症病棟にて



COVID-19入院患者数



患者数 計794人



# 共同利用施設としての役割



320列C T



3テスラMRI



1.5テスラMRI



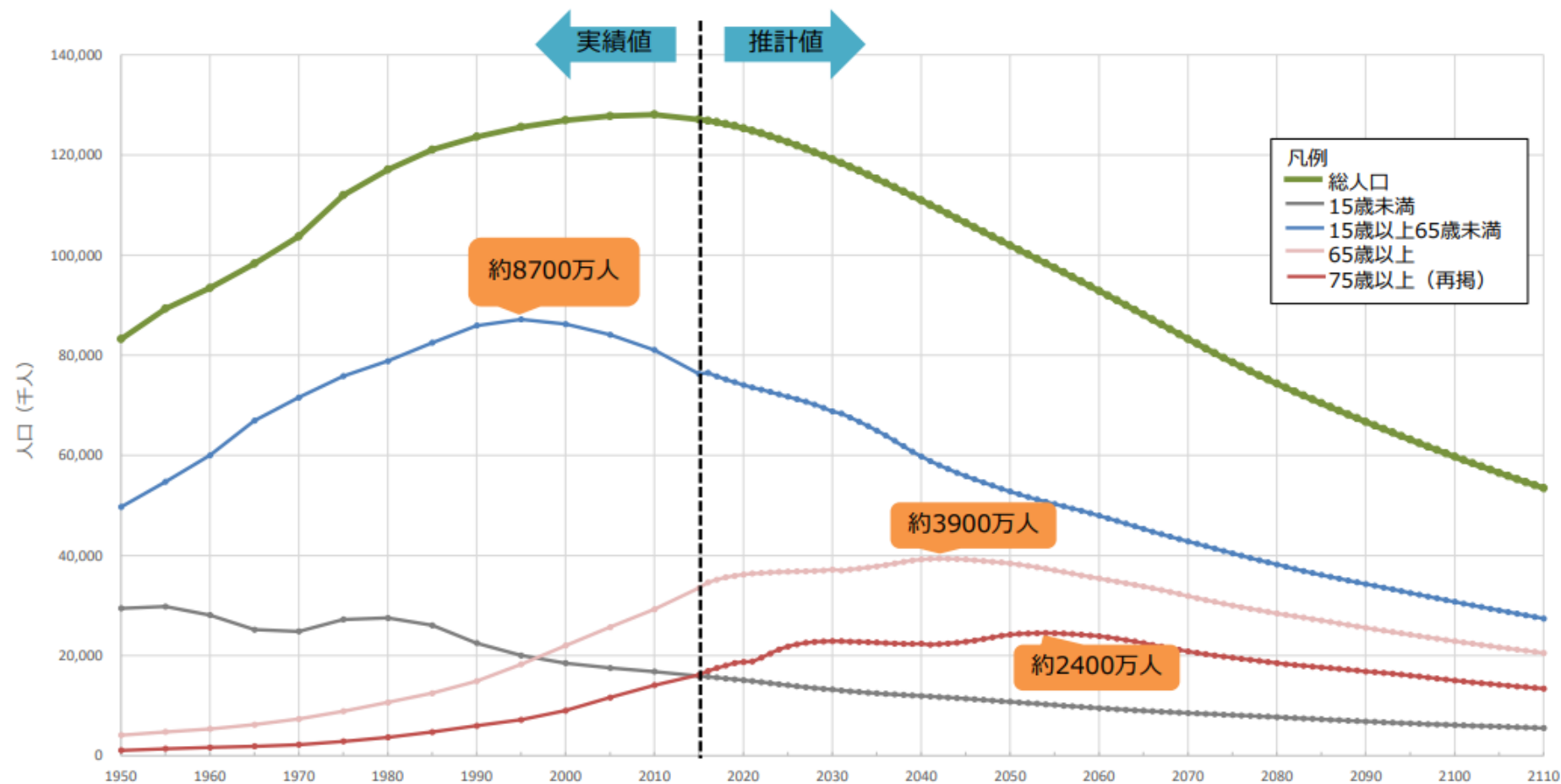
これから少子化、超高齢化社会を迎える



# 人口動態① 2040年頃に65歳以上人口のピークが到来する

令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1

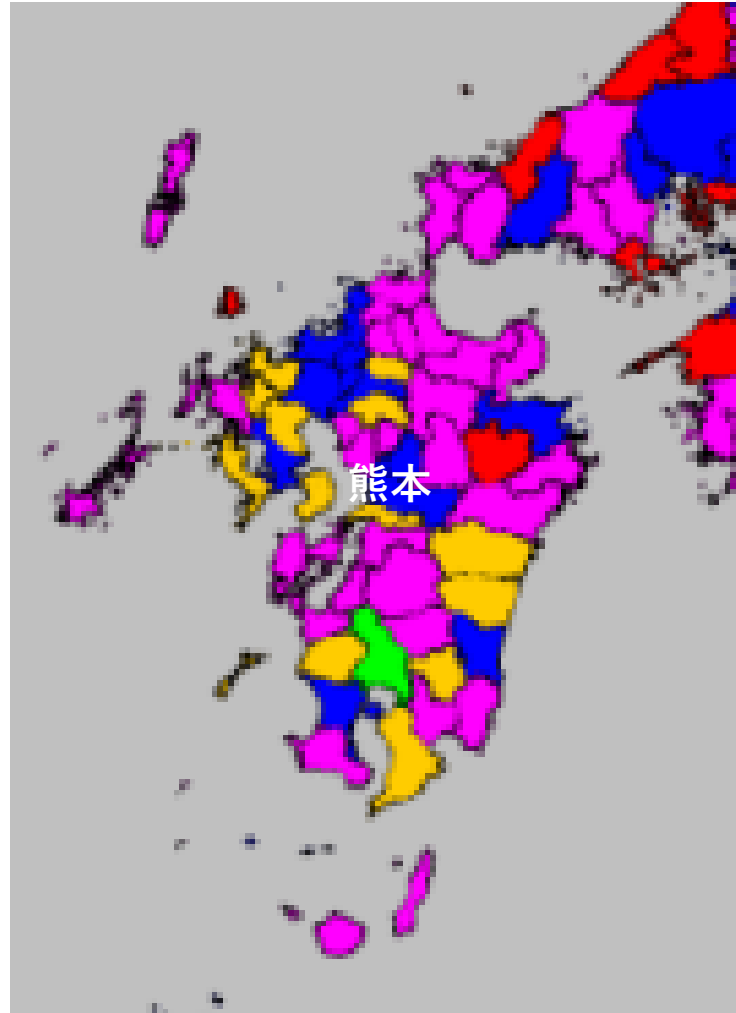
- 我が国の人口動態を見ると、現役世代（生産年齢人口）の減少が続く中、いわゆる団塊の世代が2022年から75歳（後期高齢者）となっていく。
- その後も、2040年頃まで、65歳以上人口の増加が続く。



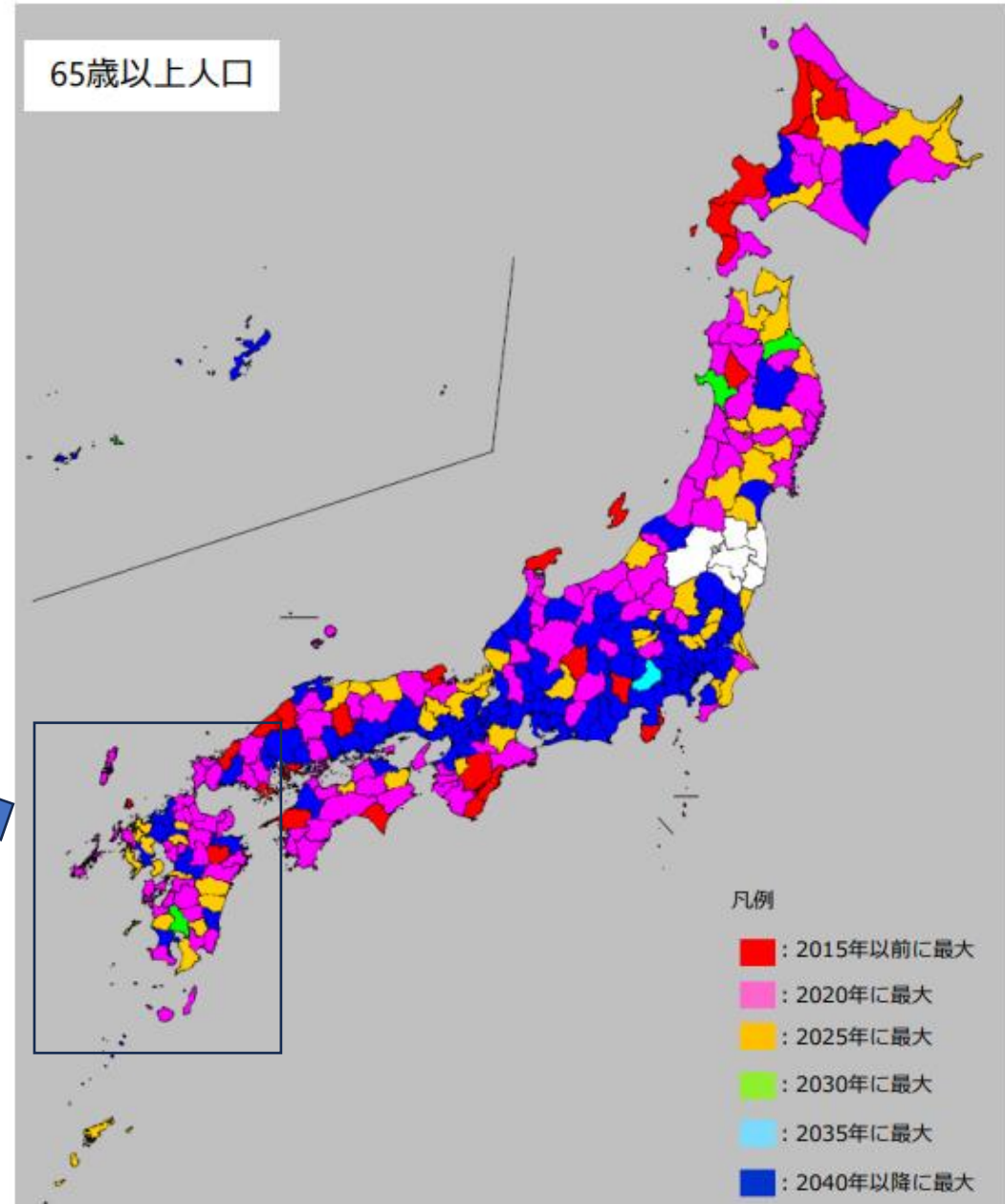
出典：国立社会保障・人口問題研究所「年齢（4区分）別人口の推移と将来推計」「総数、年齢4区分別総人口および年齢構造係数」

※ 2015年までは国勢調査の実績値、2016年以降は推計値。

# 65歳以上の人口が最大となる時期

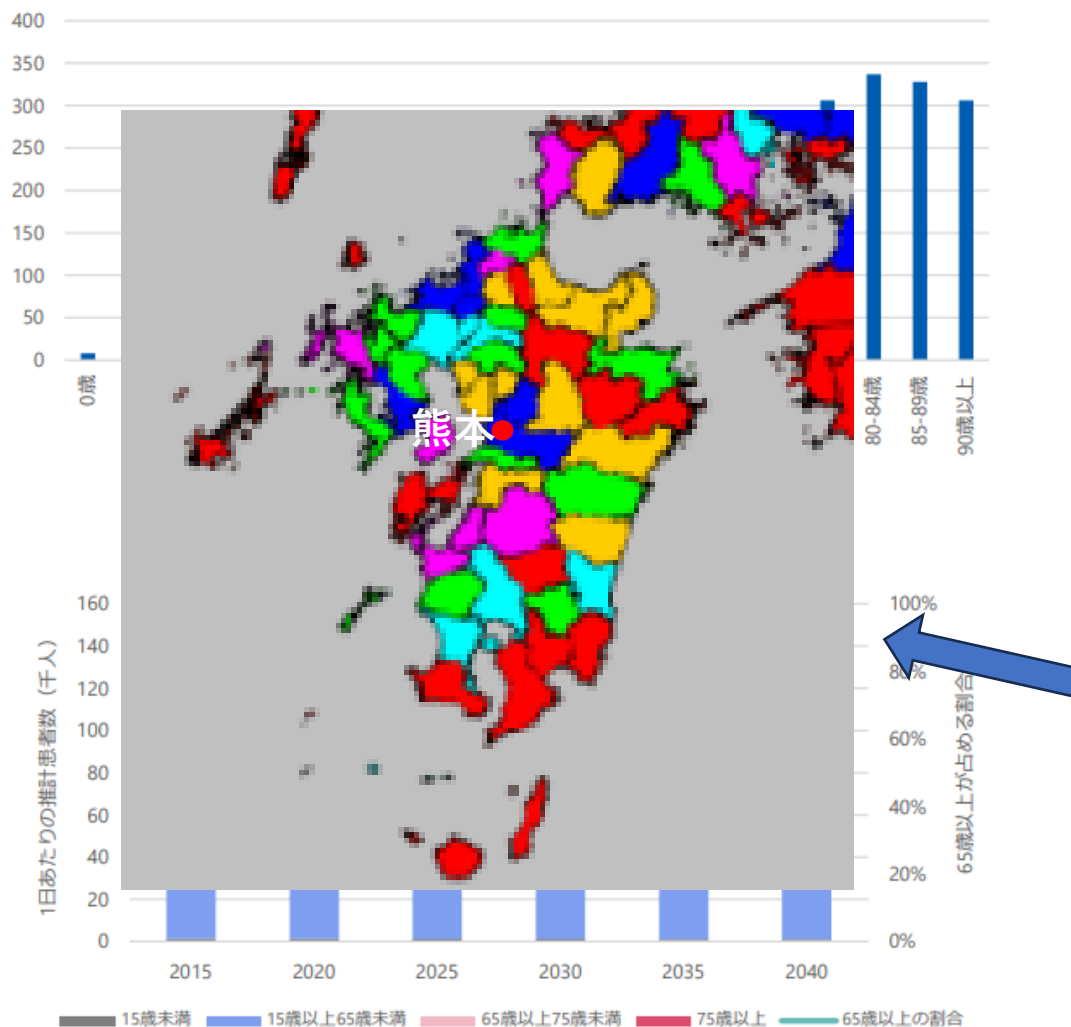


熊本・上益城は2040年以降

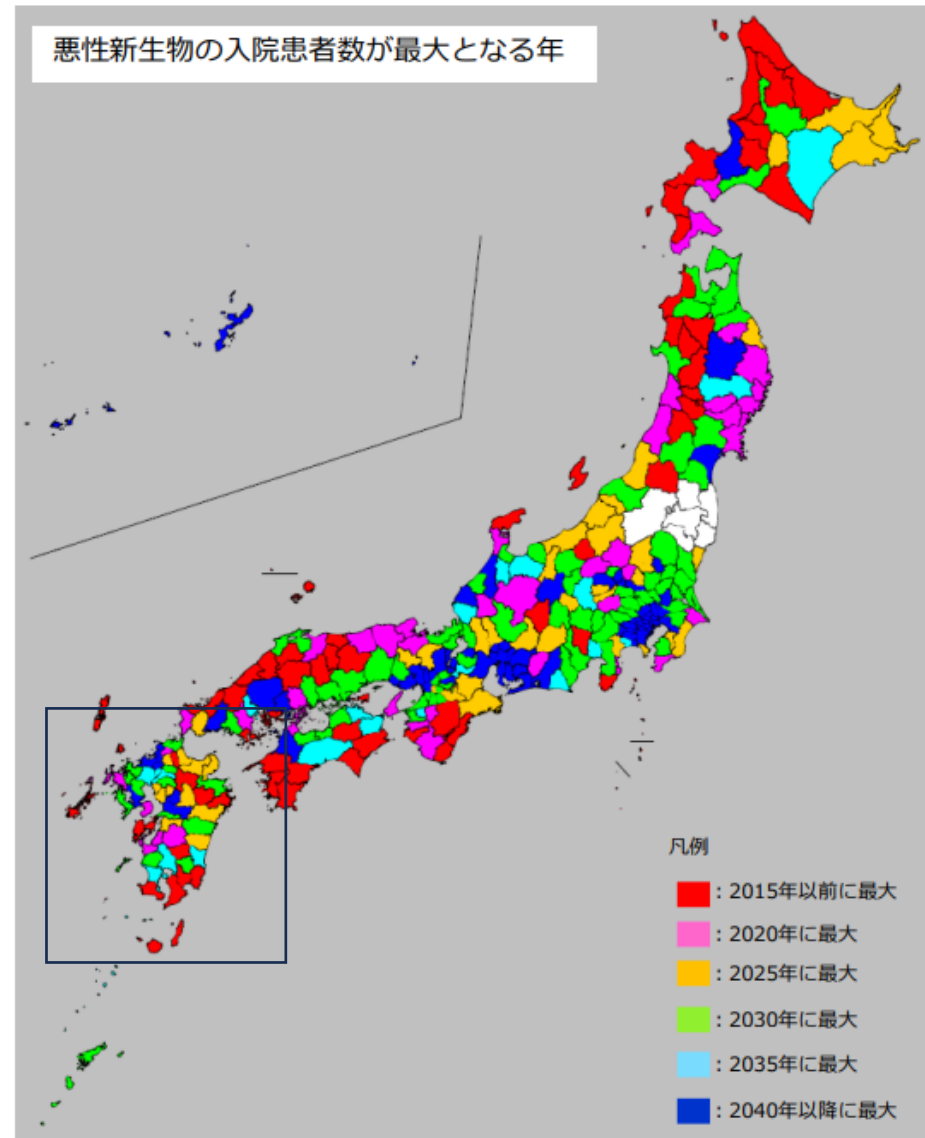


# 悪性新生物の入院患者数推計

悪性新生物の入院受療率（人口10万対）



悪性新生物の入院患者数が最大となる年



## 熊本・上益城は2040年以降

出典：患者調査（平成29年）「入院受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病分類別」

「推計患者数（患者所在地）、性・年齢階級×傷病大分類×入院一外来・都道府県別」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

※ 二次医療圏の患者数は、当該二次医療圏が属する都道府県の受療率が各医療圏に当てはまるものとして、将来の人口推計を用いて算出。

※ 福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の二次医療圏を除く329の二次医療圏について集計



# 熊本・上益城医療圏における医療介護需要の予測

## ❖ 医療介護需要予測指数（2020年実績 = 100）

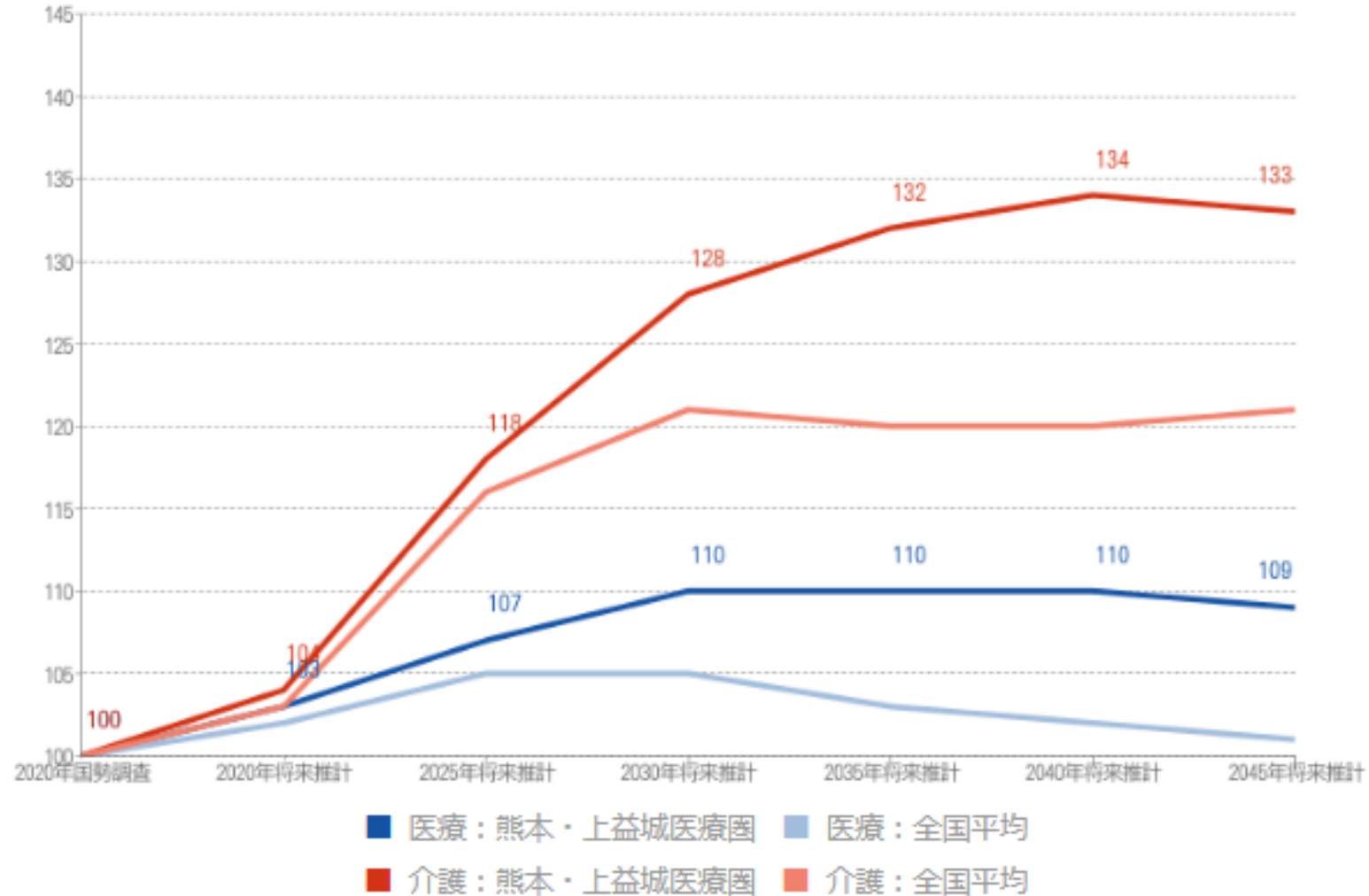
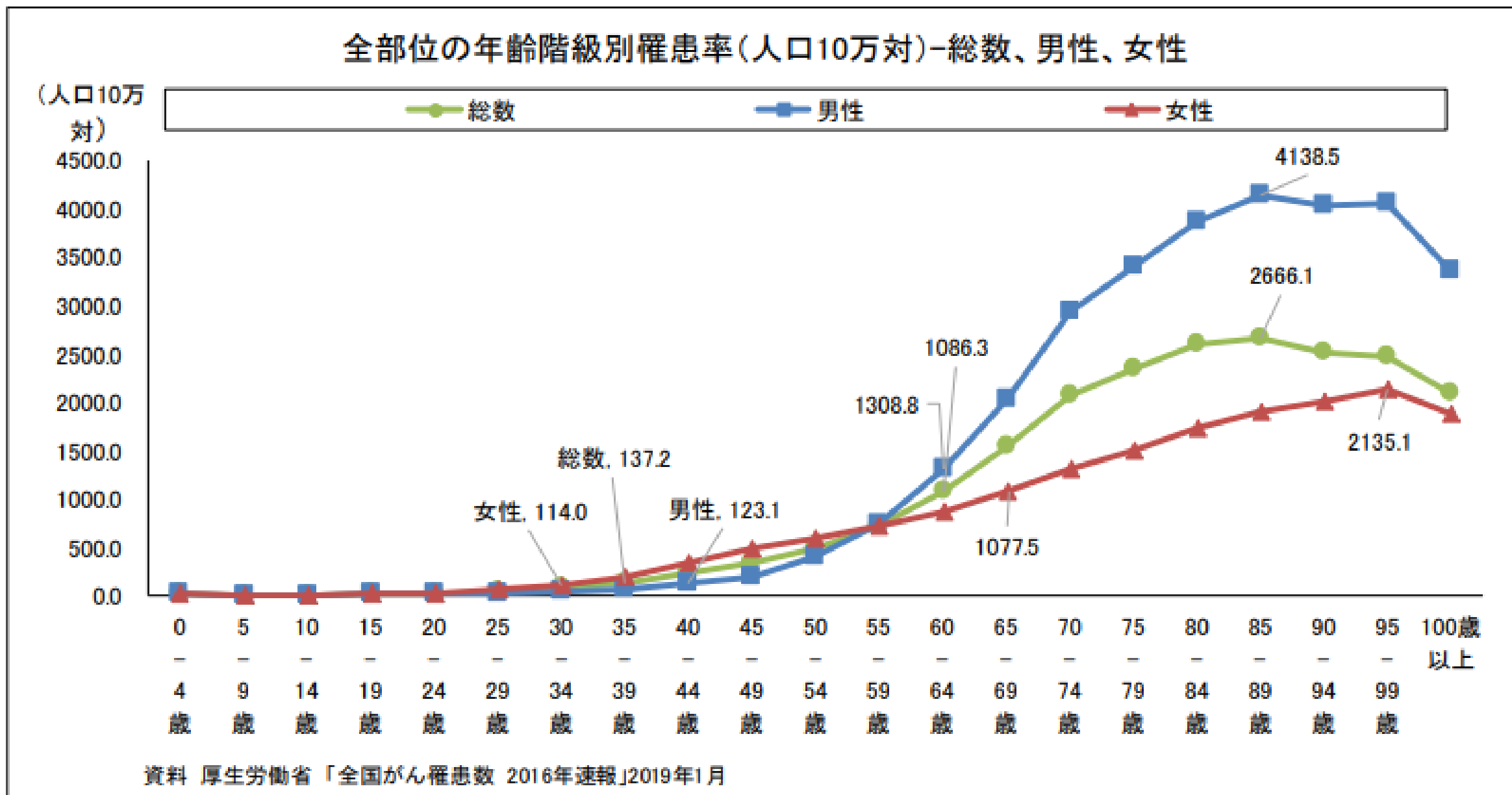
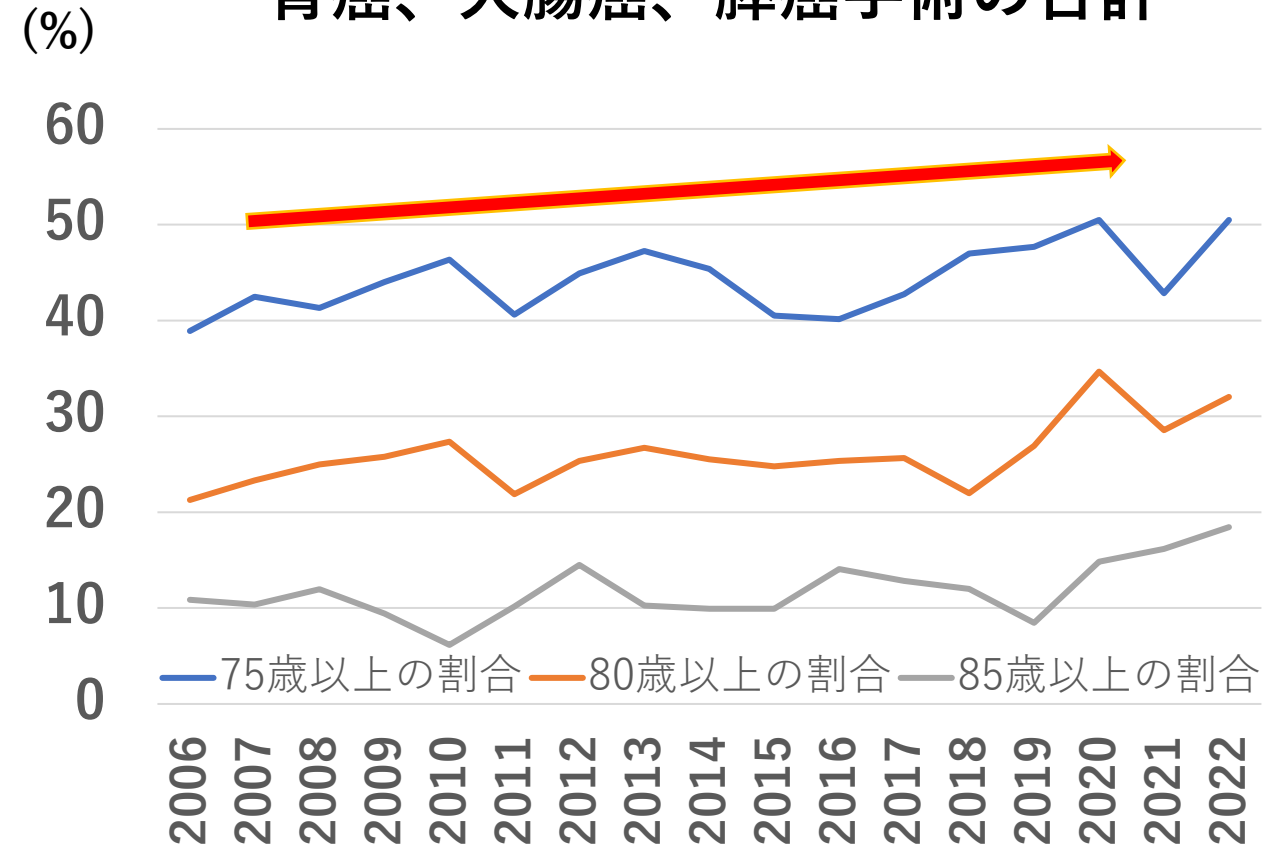


図 32 全部位の年齢階級別罹患率（人口10万対）-総数、男性、女性

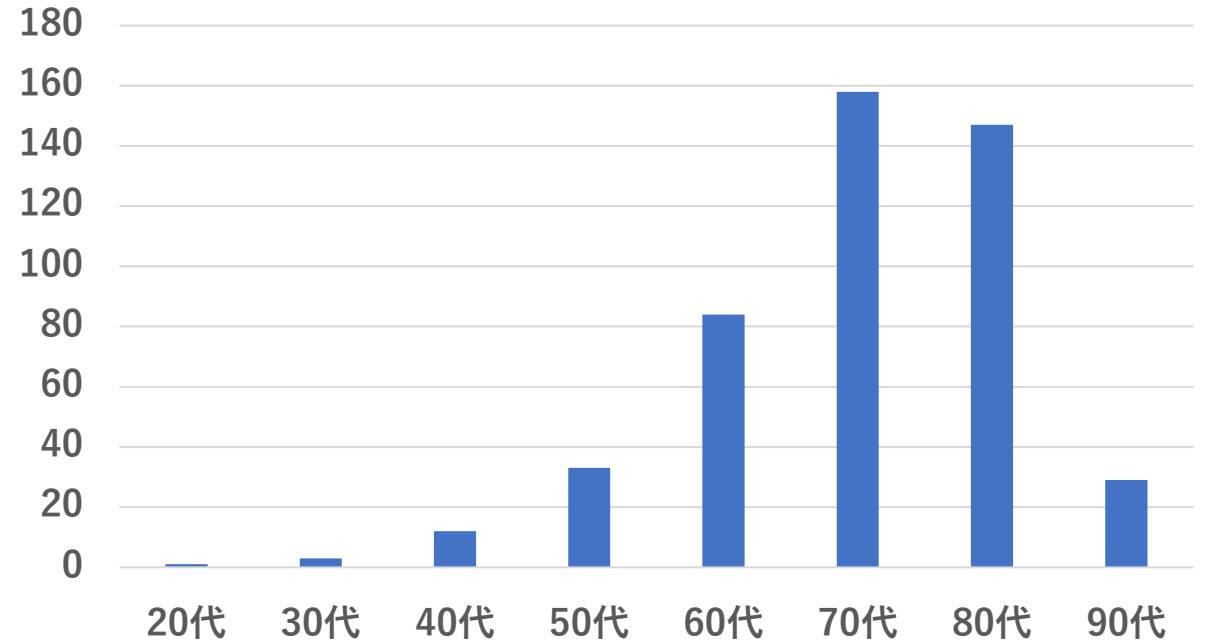


# 当院における高齢者癌患者の増加

## 胃癌、大腸癌、膵癌手術の合計



## 年齢別癌登録患者数 (2021年度)



# 高齢者の医療

- これから超高齢化社会へ突入する予測である。
- 健康寿命も延びており、高齢でも元気な方が増加するため、社会的には労働力として期待される。
- 高齢者のフレイルの防止と積極的治療を行い、社会復帰をめざして頂く。
- 問題点として、治療においてリスクが高く合併症が起きやすい。介護度が高い場合が多く、看護も大変。





# 高い水準の医療を提供



現在

高難度手術  
腹腔鏡手術

近い将来

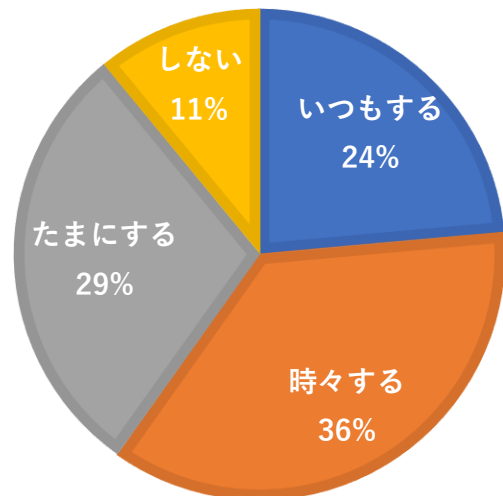
ロボット手術

「紹介してよかった」と言われるために、地域医療連携の強化が重要

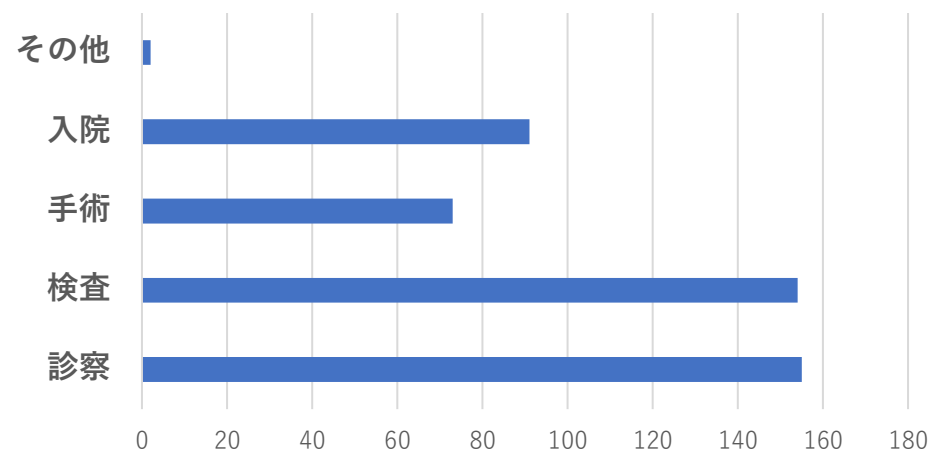


# A 会員を対象としたアンケート調査

## 当センターへの紹介について



## 紹介する目的



## 紹介しない理由



実施期間：2020年10月1日

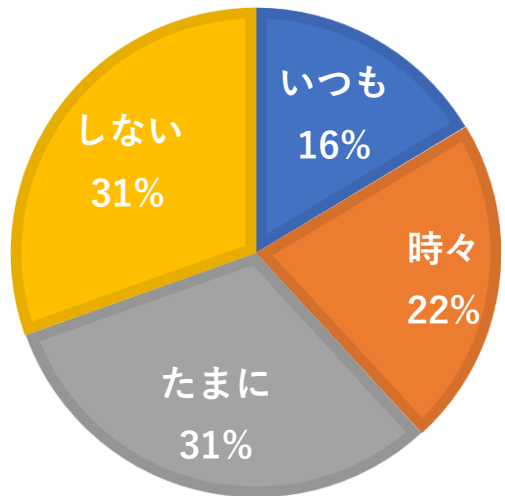
～2020年10月17日

送付医療機関数：585

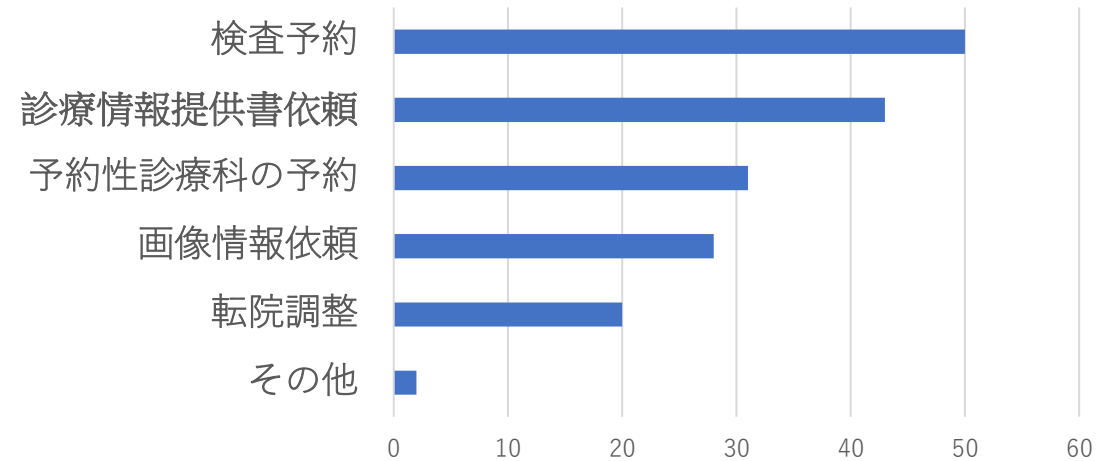
回答医療機関数：230

# 地域医療連携室の利用

地域医療連携室の利用について



利用の目的



# 組織改変にて地域医療連携室の強化

- 組織改変で主な窓口として専従の看護師長を新たに配置し、外部および内部どちらからもわかりやすくした。
- これまで職種によりバラバラで活動していた一体化し連携をとりやすくした。
- 看護師、MSW、事務員、公認心理士の多職種で構成される。



# 労働力の確保と人材教育

職員が健康で働きやすく、やりがいのある職場となること。女性が働きやすい職場にし、定年年齢の引き上げ、高齢者、外国人等の採用、人材教育システムの構築、A I, I C T、ロボットの活用などをめざす。

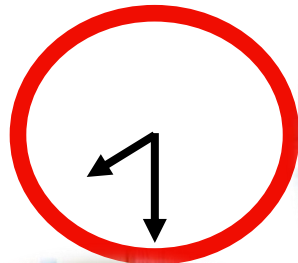


# 看護師ユニフォーム2色制

## 勤務と非勤務の区別をしています

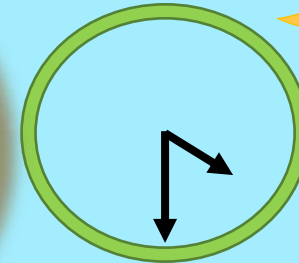
日勤

8 : 30 ~ 17 : 15



夜勤

16 : 30 ~ 9 : 15



勤務帯によってユニフォームの色を変える「ユニフォーム2色制」は、時間管理を育む一つの戦略です。誰に声を掛けたらいいかが一目でわかり、スムーズな仕事の引継ぎ、残業削減につながっています。

看護職員の負担軽減・処遇に資する体制の整備



一般社団法人 熊本市医師会  
熊本地域医療センター  
Kumamoto Regional Medical Center

# 新病院建築

1981年（昭和56年）の開院当初からの建物である本館は老朽化が進み、現代の医療・患者ニーズに合わなくなっている。新病院建築を行い、設備を改善する他、病床数を227床から204床へ削減（ダウンサイジング）することで、コストの削減、効率化を計画する。



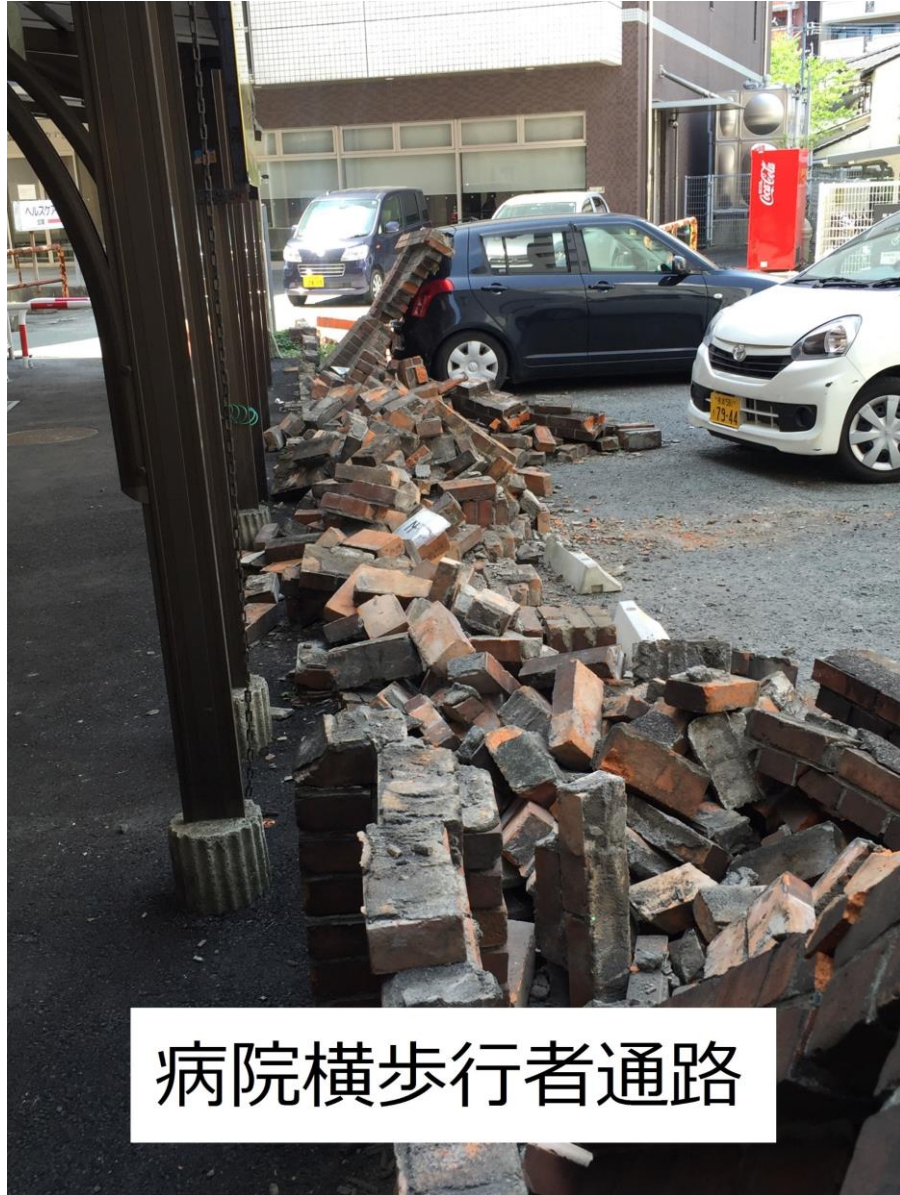


# 2016年熊本地震





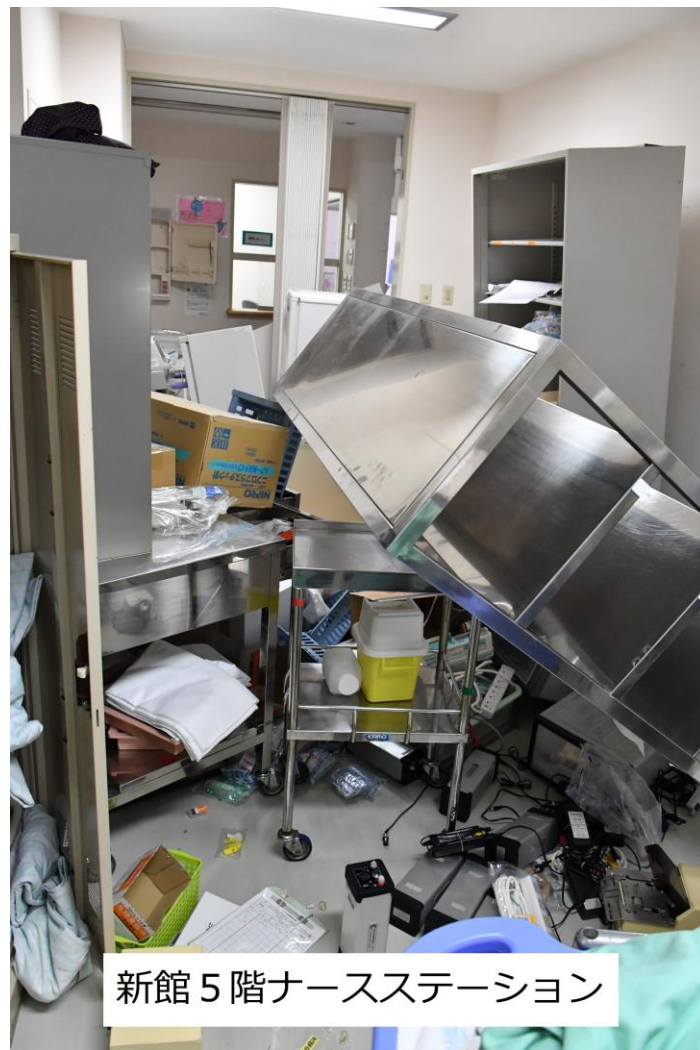
# 昭和56年に建築した本館と2016年熊本地震







本館 1 階給湯室



新館 5 階ナースステーション



本館 5 階病室



時事通信社



# これからやるべきこと（まとめ）

- **紹介しやすい病院**：連携室を強化し、顔の見える、困った時に頼りになる病院であること。これまで事務、看護師、社会福祉士等がバラバラに活動していたが、組織再編を行い、地域医療連携室として一つにまとめることで、相互連携を高め病院内・外部の窓口を一本化し、わかりやすくした。中規模病院だからできるフットワークの軽さを生かす。
- **高水準の医療**：診療科は少ないが、専門性の高い良質な医療を提供する。当院が得意とする疾患、治療を強化する。
- **公益性が高い医療**：休日夜間急患センター、救急車受入、新興感染症の診療等を継続する。今後少子高齢化社会が一層進む事が予想されているが、地域社会の要望に応え小児救急を維持する。





# これからやるべきこと（まとめ）

- **高齢者の医療**：高齢者が増加する予測であるが、健康寿命も延びており、高齢でも元気な方が増加するため、社会的には労働力として期待される。高齢者のフレイルの防止と積極的治療を行い、社会復帰をめざして頂く。
- **労働力の確保と人材教育**：職員が健康で働きやすく、やりがいのある職場となること。女性が働きやすい職場にし、定年年齢の引き上げ、高齢者、外国人等の採用、人材教育システムの構築、A I， I C T、ロボットの活用などをめざす。
- **病院建築**：病院建築と病床数を227床から204床へ削減（ダウンサイジング）することで、コストの削減、効率化を計る。小児科医療を集約化するについても検討する。小児科病床数の削減はやむを得ない。

# おわりに

熊本市は、高齢者の人口がピークとなる2040年までは医療需要が増加傾向の予測である。介護が必要な患者が増加し、ますます病病・病診連携が重要となるであろう。政府の少子化対策がうまくいったとしても小児の減少傾向は継続すると予測する。また、医師の働き方改革が始まっている。その中で当センターの地域社会で果たすべき役割を認識し、地域社会に貢献することに努めるべきと考える。

